

ブロック塀の診断カルテ

A. 基本性能の診断【基本性能値】

診 断 項 目	基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	10 ①
	10年以上、20年未満	8 ()
	20年以上	5
高さの増積	なし	10 ②
	あり	0 ()
使用状況	塀単独	10 ③
	土留め・外壁等を兼ねる	0 ()
塀の位置	塀の下に擁壁なし	10 ④
	塀の下に擁壁あり	5 ()
塀の高さ	1.2m以下	15 ⑤
	1.2mを越え、2.2m以下	10 ()
	2.2mを越える	0
塀の厚さ	15cm以上	10 ⑥
	12cm	8 ()
	10cm	5
透かしブロック	なし	10 ⑦
	あり	5 ()
鉄筋	あり	10 ⑧
	なし	0 ()
	確認不能	0
控え壁・控え柱	あり	10 ⑨
	なし	5 ()
かさ木	あり	10 ⑩
	なし	5 ()
基本性能値 (①～⑩までの評価点の合計)	A	[]

B. 壁体の外観診断【外観係数】

診 断 項 目	基準係数	評価係数
全体の傾き	なし	1.0 ⑪
	あり	0.7 ()
ひび割れ	なし	1.0 ⑫
	あり	0.7 ()
損傷	なし	1.0 ⑬
	あり	0.7 ()
著しい汚れ	なし	1.0 ⑭
	あり	0.7 ()
外観係数 (⑪～⑭の最小値)	B	[]

C. 壁体の耐力診断【耐力係数】

診 断 項 目	基準係数	耐力係数
ぐらつき※1	動かない	1.0 c
	わずかに動く	0.8 []
	大きく動く	0.5

※1 診断をする場合は、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。

D. 保全状況の診断【保全係数】

診 断 項 目	基準係数	耐力係数
補強・転倒防止対策等の有無	あり	1.5 D
	なし	1.0 []

診断結果の判定

1. 総合評点 (Q)

$$\boxed{\begin{array}{c} \text{基本性能値} \\ \text{-----} \\ A \end{array}} \times \boxed{\begin{array}{c} \text{外観係数} \\ \text{-----} \\ B \end{array}} \times \boxed{\begin{array}{c} \text{耐力係数} \\ \text{-----} \\ C \end{array}} \times \boxed{\begin{array}{c} \text{保全係数} \\ \text{-----} \\ D \end{array}} = \boxed{\begin{array}{c} \text{総合評点 (Q)} \\ \text{-----} \end{array}}$$

2. 総合評点 (Q) から、診断結果を判定

安全性の判定と今後の対応

総合評点	安全性の判定	今後の対応
$Q \geq 70$	安全である	3～5年後にまた診断して下さい。
$55 \leq Q < 70$	一応安全である	1年後にまた診断して下さい。
$40 \leq Q < 55$	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策を講じて下さい。
$Q < 40$	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去して下さい。

状況写真